

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

思い起こせば昨年のはじめは穏やかな晴天に恵まれておりました。

その1か月後から全世界の日常が暗転してしまう事を誰が予想したでしょう。新型コロナウイルス感染症の猛威はいまだ衰えるどころか日本においてはピークを迎えようとしています。実際に患者さんに対応しておられる医療スタッフの心労たるや計り知れないものがあります。私たちも多くの高齢の入院患者さんをお預かりしている立場上、今まで以上に感染対策を厳重に行っていく必要があると考えています。患者さんやご家族には面会制限などのご迷惑をおかけしておりますが何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

そして、忘れてはいけないのが令和2年7月豪雨です。特別養護老人ホームの入居者を中心に熊本県で65人の犠牲者が出ました。平成28年の熊本地震に続いての天災であり、今なお多くの皆さんが仮設住宅での生活を強いられておられます。気象予報の正確性も向上し、防災に対する意識も高くなっているにもかかわらず想定外の災害が起きてしまう事は残念で仕方ありません。

暗い話ばかりになってしまいましたが、明るい話題もありました。その中で私が最も心を打たれたのは、JAXAの小惑星探査機「はやぶさ2」が6年の歳月をかけて地球近傍小惑星「リュウグウ」への着陸およびサンプルリターンに成功したことでした。幾度の危機に見舞われながら無事に持ち帰ったサンプルに有機物を含むことが実証されれば、これらの小惑星が隕石として地球に落下し生命の起源に寄与したという仮説が成立するとのことですから夢のような話です。

現在の心境、今後の希望を「耐雪梅花麗（ゆきにたえばいかうるわし）」という言葉に込めてみました。西郷隆盛が甥に送ったといわれ、厳しい雪に耐えてこそ梅はきれいな花を咲かせる。何事も困難に耐えてこそ大成できるというまさに今の私たちの立場を表していると思います。何とかこの難局を職員一同乗り越えてますます繁栄する「リハビリテーションセンター熊本回生会病院」を目指したいと思いますので、今後とも皆様の引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



令和3年 元旦

リハビリテーションセンター熊本回生会病院
理事長・病院長 大橋浩太郎